

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	172000366		
法人名	株式会社 道央ケアセンター		
事業所名	グループホームつつじⅡ (第1ユニット)		
所在地	北海道小樽市朝里川温泉2丁目694番地4号		
自己評価作成日	平成30年1月13日	評価結果市町村受理日	平成30年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境に位置しており、周りの山々の四季折々の景色を眺めながら散歩を楽しむ事が出来ます。暖かい季節には中庭でホーム喫茶やガーデンランチを楽しんだり、花壇や家庭菜園があるので利用者の方々と一緒に水やりや、野菜を育てて収穫してメニューに盛り込んで頂いたりしています。家庭的な雰囲気の中で、利用者様ひとり一人がゆっくり安心して生活が送れるように努め、地域の方々と交流を深めながら、地域に密着したグループホーム作りを目指し取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0172000366-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年2月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームつつじⅡ」は、自然環境を含めた立地条件に対する法人代表の強い思いから、小樽市の東部に位置する山あいの朝里川温泉に5階建て3ユニットとして2002年に開設され、同法人のグループホーム「つつじⅠ」「生きがい」の4ユニットの計7ユニット、利用者63名が共に生活する場として3軒並び建っている。同事業所の特筆すべき点は3グループホームが共に、そして別法人ではあるが隣接地に在る特別養護老人ホーム、ケアハウスを含めて利用者の為の日々の介護、生活、防災等に於いて強い絆の元に連携、協力し支えあい、地域共同体的なより良い関係が作られていることであり、又「運営理念」から「地域に密着した私達の理念」更に「みんなと一緒に明るく楽しく自然な生活」を目指す為のポリシー1.明るく楽しく 2.ゆっくりみんなと一緒に3.自然の流れのなかの生活 4.見守りのケア、心のケア 5.自信の回復、とし地域を踏まえた利用者の為の理念の充実、そして実践の介護に日々努めていることである。四季折々の変化、リス等に出会える自然に生まれながら“いつも初心の気持ちで、させてもらっている”と語る職員の仕事ある介護の中で利用者が日々を暮らす「グループホームつつじⅡ」の今後になお一層の期待をしたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の運営理念とポリシー(方針)を定め、常に目の止まる所に提示し、それに沿ってサービスを提供しています。社内研修にも取り入れて皆で共有し実践につなげています。	「運営理念」「地域に密着した私達の理念」更に「みんなと一緒に明るく楽しく自然な生活」を元にポリシー5項目を設定すると共に所内に掲示し、職員は地域で暮らす利用者の為の介護に日々努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の小学校の行事へ参加させて頂いたり、お祭りやクリスマス会、雪明りなどボランティア、子供会のご協力を頂き楽しく交流できています。	温泉街である為に通常の町内会活動とはなっていないが、クリスマス会等のイベント行事に地域の小学生等を招待し、地域の方々や利用者とのふれあいの機会を多く作り、又子供110番の場として地域への貢献に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回運営推進委員会を開催し、地域の民生委員さんや地域の小学校PTAさん、ご家族の方々へホームでの様子をお伝えしたり、認知症の方々の理解や支援の方法等をお話しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では、自己評価、外部評価について報告しています。日々の改善、取り組みに向け意見交換を行いサービス向上活かしていきます。	運営推進会議は、2ヶ月に1回の定期開催となっており、包括センター、家族、民生委員、そして認知症の理解を深めてもらう為に小学校のPTAの出席を得て、利用者の生活状況、行事報告等を行い、その議事録は全家族に送付されている。	当事業所に於いての運営推進会議は、他に例を見ない小学校のPTAの参加を得る等して積極的に行われているが“ヒヤリ・ハット、事故”等の報告を行うことにより事業所の社会へ向けての公開性をより一層高めることへの今後に期待をしたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や窓口で相談し、アドバイスを受け、協力関係を築くよう取り組んでいます。	更新申請時等に行政担当者と、又包括センターとも適宜意見、情報交換等を行い、そして市内50カ所程のグループホームと“相互訪問研修”を年3回開催することにより市を始めとして地域内グループホーム等との積極的な連携に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開き社内研修にも取り入れ禁止対象となる具体的な行為を職員が正しく理解し、日々のケアに取り組んでいます。	「身体拘束委員会」では、勉強会を積極的に行い、その内容は各フロア毎に報告されており、又事業所単位で3ヶ月に1回の定期的研修を行う等して職員は身体拘束をしないケアの実践に日々努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて繰り返し学ぶ機会を持ち、日々の生活の中で利用者様の様子に変化がないか注意し、防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に1度の社内研修を実施し、職員全員が理解を深め、活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス提供前に契約書、重要事項説明書にて十分話し合える時間を設け、納得いただけるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がホームに来られた際、意見や要望を伺っています。ご家族があまり来られない時は電話やお手紙等で対応し、意向に沿ったケアが行えるようにしています。	運営推進会議の議事録を2ヶ月に1回、写真を中心とした3棟合同の「つつじ便り」を年3～4回、そして利用者の生活状況を始めた個人情報を各家族に2ヶ月に1回送付し、その情報を家族と共有する事により意見を聴取し、その反映に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を重視し定期的に会議を開き、意見交換の場を設けています。又その日気付いたことをすぐに職員に伝えるようにしています。	1ヶ月に1回ユニット毎のフロア会議に於いて職員の意見を聴く機会を設け、又必要があれば都度話し合い、情報交換を行いその情報を共有し、運営に対する職員の意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が能力を発揮出来る様に努めています。それぞれが目標を持ち積極的に資格取得に取り組み向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修を実施し外部研修へも参加しています。又資格取得を目指す職員へアドバイスしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問研修を通じて同業者と交流し意見交換を行い、学んだ事をサービスの質の向上につながる様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	ご家族やご本人が安心して入所できるようご家庭に訪問してお話する機会を持ち又見学を勧めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や希望を聞き入れ、出来るだけ希望に沿った支援が出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人とその都度話し合い適切な支援が出来る様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除、リネン交換などを職員と一緒に、わからない事を教えて頂きながら、良好な関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時やお電話にてご本人のご様子をお伝えしています。又、ご家族からの要望をお聞きして安心して過ごせるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力を頂き、以前の友人とのつながりが途切れないように電話の利用や快く面会に来ていただけるよう努めています。	利用者家族の協力を得ながら、理美容室、以前買い物に行っていた店等の利用者の馴染みの人、場の継続に日々努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を把握しその方に合った関係を築けるよう工夫し支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談や心配事があればいつでも連絡頂けるようご本人ご家族にお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人の表情、言葉、行動から思いを把握するよう努めています。意思疎通が難しい場合はご家族から情報を得るようにしています。	利用者の思いや意向は、職員が日々利用者寄り添う介護の中で表情、言葉等を見逃し聴き逃す事のないように細やかな配慮をしながら確認、把握し、職員はその情報を共有し利用者本位の日々の暮らし、生き方となるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、ご家族やご本人から情報を聞き、出来る事は日々の生活の中で継続できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方や、心身の状態を職員間で話し合い無理がかからない程度に行える事を継続して頂いています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を聞き担当者会議で適切なサービスが出来る様見直しとケアの方法を話し合い介護計画を作成しています。	介護目標は、利用者、家族からの意見、情報を得ながら導き出し、必要に応じてフロア全体で見直しをすることとしており、職員は利用者の日常生活となるようその短期目標に沿った介護に日々努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個別に記録して職員間で話し合い情報を共有しています、モニタリングを行い職員間で話し合った事を介護計画見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関以外の通院、送迎などご家族が同行出来ない場合は、柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、消防、地域のボランティアの方々から協力を頂き、豊かな暮らしが出来る様支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前のかかりつけの医院にするか、施設の協力医療機関にするか、ご本人ご家族と話し合い希望に沿った受診、往診を支援するよう努めています。	利用者、家族の希望、話し合いにより、従前のかかりつけ医とするか、又状況等の変化を確認しつつ往診医療が可能となる協力医への移行を推めるかを見極めながら、利用者の為の万全の医療体制となるよう日々努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理を行い変化があった場合は、早急に協力医療機関の看護師に相談し、対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は安心して治療できるように病院関係者やご家族と連絡を取り合い、情報交換や経過を共有し、早期に退院出来る様に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、サービス開始前に説明しています。協力医療機関や他の施設と連携しその状態に合った支援が受けられる様に取り組んでいます。	法人全体が終末期に於ける看取りを行わない事を、利用者、家族に同居時に説明、了解を得ており、その終末期には医師を始めとした看護師、家族、職員の話し合い、検討によって病院等の利用者の行き先を決める事としているが、職員はその最期まで“見守りのケア、心のケア”に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修などで応急手当の方法や初期対応が出来るように学んでいます。これからも職員全員が実践できるよう努めていきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で定期的に日中、夜間を想定した避難訓練を行っています。地域の方々に応援を頂き、安全に避難できるよう実施しています。	防災訓練は、つつじⅠ、Ⅱ、生きがいの3棟合同で定期的実施している。又、崖崩れ等の自然災害に対しては消防署、地域と情報を共有し、その協力体制の元迅速な行動を図る事とし、避難先は運営推進会議を通して全家族への周知に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し相談事などは個別にお部屋でお聞きしたりし、穏やかに生活が出来る様に支援しています。	利用者に対する呼びかけを始めとした接遇に関し職員は研修等を通して周知し、又トイレにカーテンを取り付ける等の細やかな配慮も為されており人格の尊重、プライバシーの確保に日々努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を伺えるように声かけ方を工夫し、話しやすい環境を作るように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、行事などはご本人の希望や体調を優先し時間を変えるなど無理のないように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族協力のもと季節や気温に合った服装や髪形はご本人にお聞きしながら散髪や美容室に行く等が出来るように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いがある方には、好みに合わせた食事を提供しています。職員も一緒に食卓を囲み、介助が必要な方には支援を行なっています。無理のない程度で一緒に片付けを行なっています。	法人が作成した献立を、職員は創意工夫しながら調理し「利用者に美味しいと言われたらやったあ〜！という感じ」と嬉しそうに語る。そして畑で育てた野菜も利用者の作る漬物となって食卓に添えられ、美味しく楽しい食事時となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや体調に合わせて、お粥、刻みなど、又量の調節をしています。食事の摂取量、水分量は毎日記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に合わせて歯磨きを促し、不十分な時は仕上げ磨きや義歯洗浄の援助を行っています。夕食後は義歯を預かり消毒しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立されている方は今の状態が維持出来るよう経過を見守ります。困難な方は援助を行い、プライバシーに配慮したトイレでの排泄援助をしています。	利用者個人個人に合った布パンツ、リハビリパンツの使用を考慮し、夜間に於いては歩行等困難な利用者にも声掛けを行いポータブルトイレ、オムツの使い分けを工夫しながら、トイレでの排泄を基本として、排泄の自立に向け日々努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけの病院にて下剤を処方して頂き、量を調節しながら排便の有無の確認をして記録しています。又マッサージや牛乳を飲んで頂くなどしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆったりとした浴室で、一人ひとりの体調や気分を考慮しながら週2回以上の入浴を楽しめるように支援しています。	フロを週6日使用できるように湯を張り、午後と夕食前、夕食後就寝までの時間帯、そして循環器が設備された清潔なお湯で、利用者は週2回以上、希望する時間での入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに合わせ、夜間はゆっくり安眠できるように日中の活動量を促しています。夜間は定期的に巡視を行い安心して眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を事前に確認し、副作用、用法、用量について理解し服用中の体質変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事や出来る事を把握して行って頂いたり、嗜好品の継続や歌会、ホーム喫茶や暖かい日には散歩にお誘いし気分転換の支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の小学校の行事(学習発表会、運動会)に参加したり、ホームでは春はお花見、秋には小樽美術館へ生花展の見学に外出しています。ご家族の協力により外食や美容室へ出かけられています。	周囲を山に囲まれており、その山並みの四季折々の美しさを眺め、そしてリス、キツネ等の動物にも出会える道を、職員のチームワークの良さによって利用者はいつでも行きたい時に散歩し、又事業所の花畑前のベンチに座って、花を眺めながらの日光浴も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で少量の金銭管理している方がいます。ご本人の希望でご家族と相談しながら支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親しい方からの電話の際は直接お話しして頂いています。又希望があればこちらからお電話を掛けてお話しして頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けや、利用者様が書いた書道などの作品を掲示したり、一人ひとりの体調を聞きながら室内の温度調整を行い快適に過ごせるよう支援しています。	利用者と職員が食事をする食堂と寛ぎのリビングが広めの廊下を挟んで有り、その窓は大きく、明るく温かな陽射しに溢れ、その窓から眺める景色は冬は白く輝き、春は若葉と花、夏は緑濃く、秋は紅黄の色鮮やかな山々が一幅の画となり、そしてその共有空間は利用者と職員の“みんなと一緒に明るく楽しく自然な流れのなかの生活”の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居室があり、自由に自室で過ごしたりフロアで気の合う利用者様とお話されたりと思い思いに過ごせるよう支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご家族と相談しご本人の使い慣れた家具や好みの物を配置し、今まで通り居心地良く生活して頂けるように支援して行きます。	居室は6畳程の広さがあり、利用者が寛ぐ一人の時、そして来し方行く末を思う時の場となっている。そして「利用者の立場に立つての声掛けそして介護を…」と語る職員の“明るく楽しく、見守りのケア、心のケア”の中で利用者は安全、安心の日々を暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の居室やトイレには一人ひとりがわかる様に目印や見出し、名前を付け不安なく自立した生活が送れる様に工夫しています。		